

第五福竜丸から平和を学ぼう!!



日時：2017年3月29日（水）
 10:30~12:30
 場所：都立第五福竜丸展示館
 参加者：23名（大人15名、子ども8名）
 主催：東京都生協連 平和活動担当者連絡会

◆ プログラム ◆

- 10:30 開会・あいさつ
- 10:35~ 施設見学とお話（全員）
- 11:05 工作：牛乳パックで第五福竜丸を作ろう（お子さん）
- 学習：お父さん・お母さんが学ぶ、平和と核兵器廃絶（大人）
- 12:25~ まとめ・アンケート記入
- 12:30 閉会

第五福竜丸は、1954年3月1日にマーシャル諸島海域でマグロ漁業操業中に、アメリカ合衆国がおこなった水爆実験による“死の灰”で被爆してしまった悲しい歴史を背負った船です。現在、第五福竜丸は原水爆禁止、平和を求める市民の声により、“第五福竜丸展示館”で大切に保存されています。春休みの機会を利用し、みんなで第五福竜丸展示館に出向き、施設を見学した後、お子さんは工作を楽しみ、大人たちは平和と核兵器廃絶について学習をしました。



都立第五福竜丸展示館
主任学芸員：安田和也さん



見学とお話



初めに、第五福竜丸がどんな船だったのかを説明していただき、その後みんなで展示館を見学しました。「第五福竜丸はどんな船だったか知っていますか?」「魚を獲る船!」「何の魚かわかりますか?」「マグロ!」お子さんが答えたのには驚きました。



実物大のクロマグロの絵を見せていただきました。大きいですね!



当時の船の中での生活の様子などを説明していただきました。

太平洋の広い海が放射能で汚染されました。



パネルを見ながらのお話



学習：平和と核兵器廃絶



第五福竜丸は何故被ばくしてしまったのか。1954年3月1日に行われた2回目の水爆実験「ブラボー」は、広島に落とされた原爆の1000倍の破壊力があつたそうです。爆発によって砕けた珊瑚の粉塵がキノコ雲に吸い上げられ、放射能を帯びた「死の灰」となり、周辺に降り注いだことで乗組員23名全員が被ばくしてしまったそうです。また、マーシャル諸島のロンゲラップやウトリック島の住民も被ばくしました。ビキニの周辺の海も大気も放射能で汚され、たくさんの漁船が被害をうけました。第五福竜丸が被ばくしたことがきっかけで核実験反対の署名運動が起こり、皆で声を上げ訴え続けた結果、1963年には不十分ながらも地上や大気圏での核実験を禁ずる条約がむすばれました。声を上げ続けることはとても大事な事ですね。核兵器がもたらした被害は今日まで続いています。二度と戦争を起こさないために、核兵器のない世界を目指して私たちに何ができるのか考えていかねばならないと改めて感じました。

工作：牛乳パックで第五福竜丸を作ろう

子どもたちは牛乳パックで第五福竜丸を作りました。ボランティアの方に丁寧に指導していただいたので、みんな完成させることができました。



材料を確認してスタート！



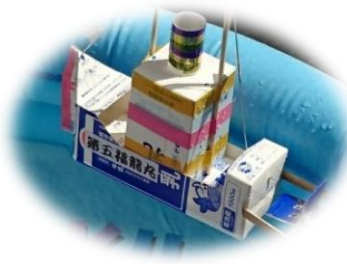
みんな真剣です！！



できあがり～♪♪

進水式♪

みんなとても上手に船を走らせることができました。



◆参加者の声◆（アンケートより抜粋）

- ・第五福竜丸がどんな事でどう使われていたのかよく分かりました。（お子さん）
- ・本当に走る船を作れてよかったです。（お子さん）
- ・日本が被爆国なのに原水爆禁止条約に批准しないということに本当に怒りを覚えます。国民として多くの人々と声を上げて行きたいと思います。（60歳代女性）
- ・お母さんたちが声を上げ、地上での核実験を止めることができたことに大きな希望を感じました。あきらめず、事実を見つめ、深く学び声を上げていかねばと思いました。（50歳代女性）
- ・第五福竜丸をはじめ、多くの漁船が被爆したことを知ることができ、歴史を少しでも知ることができて良かった。教科書では知ることのできない事実だったので勉強になった。（30歳代女性）